

(様式第9号)

高槻市立第十中学校区運営協議会 会議録

令和6年6月27日作成

会議の名称	令和6年度 高槻市立第十中学校区 学校運営協議会		
会議の開催日時	令和6年6月27日(木) 18:30~20:05		
会議の開催場所	高槻市立桜台小学校 ランチルーム	公開の可否	可
担当課	教育指導課・地域教育青少年課	傍聴者数	0人
非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む)の場合)	・会長、副会長の選出、要綱の確認 (高槻市審議会等の会議の公開に関する指針第5項による)		
出席委員	三川俊樹、飯塚宏平、田中啓子、吉川明、玉出勝実、重松良之、石井英真、宮田佳代子		
事務局出席者	(第十中) 宮崎義之、西村祐輔、窪田恵美子、村上千恵 (竹の内小) 富永崇、黒木慎介、土谷定義、伊藤初美、青木奈津子 (桜台小) 丸山みち子、西山高史、松下裕香、西田淳一		
会議の議題	1. 会長、副会長の選出について 2. 会議の公開に関する要綱、傍聴要領について 3. 学校運営協議会の役割と地域学校協働活動推進員について 4. 十中校区ランドデザインについて 5. 今後の予定		
配付資料	資料1 令和6年度高槻市立第十中学校区学校運営協議会委員名簿 資料2 高槻市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則 資料3 第十中学校区学校運営協議会の会議の公開に関する要綱 資料4 第十中学校区学校運営協議会傍聴要領 資料5 高槻市地域学校協働活動推進員の委嘱等に関する要綱 資料6 令和6年度 第十中学校ランドデザイン		
審議等の内容	・学校運営協議会の会議の公開に関する要綱及び学校運営協議会傍聴要領の説明と承認 ・学校運営に関する基本的な説明と協議及び承認		

(別紙)

高槻市立第十中学校区運営協議会 会議録

1. 開会	校長 あいさつ
2. 議題 1	会長の選出 吉川委員 副会長の選出 飯塚委員
3. 議題 2	会議の公開に関する要綱・傍聴要領について 傍聴希望者の確認→希望者なし
4. 議題 3	学校運営協議会の役割と地域学校協働活動推進員について 学校より報告 学校協働活動推進員(推進員) 田中委員
5. 議題 4	(議案 1) 第十中学校グランドデザインについて 学校より説明→質疑応答(下記)→委員による承認 〈質疑応答内容〉 委員 授業づくりについて「学び合い」があったが、コロナの影響でグループ学習がやりにくい、困難な時期があったと思う。今、少しずつましになったと思うが、コロナの時期と今と比べて学び合いがどのように変わってきたか、現場感覚で教えていただければ。 学校 学び合い自体は距離感覚も近くなり、以前にくらべて活発になっているのではないかと感じます。学び合いの作法や声のものさしなど校区で共通して取り組んでいるものもあり、質も深まっていると思います。 委員 自己肯定感を高める方法として、支援ルームで振り返りをしていると言っていたが、本当に自己肯定感をあげることにつながるのか。三川先生に聞きたい。振り返りを書かなければならないと強制されているものに対して自己肯定感があがるのか聞きたい。

委員	<p>振り返りの本質は楽しかったのかということ。思わず振り返りたくなるということが1つでも2つでもあったらいい。一方で充実感があつたなどやり遂げられたということが大事。ほめるでもしかるでもない。舞台を与えてやり遂げるということが大事。ただし最近、意味のある活動であればあるほど、自分にとって意味のある活動だったかどうか振り返ることで、自分では気づかなかつたことに気づくことができる。全然あかんかつたことに可能性を見出すこともあるので、イケてる自分に意味を見出す。そういうニュアンスでやっていくなれば意味がある。振り返りが目的にならなかつたらいい。</p>
委員	<p>キャリア教育は様々な体験活動を通して非認知能力を育てることにつながる。子どもたちが体験の中から自らの成長を感じ取られるような記録を積み重ねていく。振り返りを自分たちでさせるだけでなく、先生方が効果的な声かけをしたりすることが大切。目標を掲げて、高い目標を立てると達成できなくて自己肯定感が下がることもあるので、どんな目標を立てるかという声かけが必要。あまり明確にプランを立てるのではなく、こんな自分になりたいというような願望などを立てて、全部を振り返るのでなく、結果ではなくプロセスを振り返る。自分なりに振り返って、がんばつたと実感できればいい。こういった振り返りができるようになるには、先生方の効果的な声かけが必要。子どもたちが自分で自分を振り返って、次のことを考えられるような声かけをしてあげてください。1人ひとりの子どもの声に耳を傾けて、子どもたちの自己肯定感をあげてあげる。ほめることで自己肯定感があがらないわけではない。</p>
委員	<p>竹小でコミセンの夏祭りをするのだが、中学生が地域のお祭りのスタッフに来てもらえるとうれしい。地域の中に実際に入って、スタッフとして働いてもらえたらうれしい。チラシも配布したが、スタッフで入りたかつたらぜひ。7月27日16時から21時。ずっといてほしいわけではなく、1時間でもいい。本部に来てもらえたら、何をしてほしいか伝えるので、ぜひ地域行事に参加してほしい。竹の内や十中だけでなく、桜台の子どもたちでもいい。それから1月にどんと焼きでおもちつきをしたいと考えている。若い力がほしいので、そちらもぜひ参加してほしい。</p>
委員	<p>青健協。小学校4～6年で夏と冬の宿泊行事がある。例年児童生徒数の減少とともに、参加者が少なくなつている。別の側面でいうと、小学校</p>

委員

で参加して楽しかったから中学生や大学生などでスタッフとして来てくれることもある。大人より学生に子どもたちはよく懐いたり、言うことをよく聞いたりするので、子どもたちといろいろ話をしている。地域の大人ではなく、学生が力になってくれると小学生も楽しめるし嬉しそう。自分たちが現役のときに体験したことを、今度は自分たちが年下の子どもたちと関わろうとしてくれている地域ということも知ってほしい。

委員

福祉委員会は憩い喫茶をしている。

炊事係というボランティアをしてくれている人が高齢化してきたので、ぜひ若い人にも手伝ってほしい。日曜日には配食サービスを90軒ぐらいしているので、その手伝いもしてくれたら、配食先のおばあちゃんやおじいちゃんも喜んでくれると思う。桜台が年末に書いてくれる手紙を渡すと何人かから返事が来る。実際に元気になっているようすも目の当たりにしているので、自分にはできないので、ぜひ。

委員

実際にスタッフをしてくれていることを小学校や中学校にも伝えてもらえるといい。子どもたちは参加していても、そのことを知らないと思うので、子どもたちにも知ってほしい。

委員

地域にはたくさんの力がある。でも高齢の人が増えて、力仕事ができない、夏になると熱中症が怖いなどで動けない人もいる。だからこそ地域の人たちがどんなことに困っているかなどを実際に考えてもらえると、いろいろなことが見えてくるかもしれない。いいところばかりでなく、問題点も知ってほしい。

地域自体に困り感がある。つまり子どもたちの学びのチャンス。でもずっとお手伝いとなると学びではなくなる。今のような話を聞いたうえで、じゃあどうしようかと考えていけばいい。自己肯定感ではなく、自己効力感という自分が動くことで何か変わったということを感じられる言葉がある。現実を動かせると、こんなの無理と思っていても、できるやんと体験・実感できることで、動いたら何か変わるやんとなる。そこをうまく総合と地域を結びつけていく。お手伝いにとどまらず、しっかり主人公となる。運営の人になる。運営の人になると、その目線で考えられる。若い人が動くだけでだいぶ変わることもある。自分たちで考えて動いて、マネジメントしていくことが大事。

	<p>そして学びあいに関して、自由進度などとも言われたり、1人ペア1人、立ち歩きしましょうブームなどがある。立ち歩きをすると、ペアで学習することまでしかできない。コロナが緩和して、グループ学習ができるようになってきた。以前はホワイトボードを囲んでやっていたが、今はあまり使われていないように思う。使っちゃいけないわけじゃないから、使ったらいい。グループ学習を呼びもどしていけばいい。子どもたちの多様性感など、コミュニケーションのハードルがあがっているの で、学び合いをするうえで課題となることもあると思う。コロナ前と変わったことがあれば教えてほしい。</p>
学校	<p>1時間のすべてを学び合いとして進めているわけではない。基本的に学習班で学習し、1人で学ぶこともあれば学習班で学習することもある。学力差があったり、1人で学ぶことが困難な生徒がいるので、学習する意欲がでたり、少しでも基礎的な力がつけばいいと考えている。</p>
委員	<p>コロナ前と比べて共同学習でやりにくさがあったりはしないのか。</p>
学校	<p>学び合いを行うことのメリットを子どもたち自身がわかったり、感じたりしている生徒が多いので、積極的にやっている生徒が多い。</p>
委員	<p>課題設定や問いを考えないと、基礎学力の基盤をつくるということと、学び合いが別にならないように気をつけないといけない。語彙力をつけないと概念が考えられないなど、つながっている。</p>
委員	<p>学び合いって机同士をくっつけてやる感じなのか。それぞれのノートなどを持っていて、誰かがまとめて発表するという形なのか。 新しくイベントを立ち上げようという協議会があって、その中で話をつめていくと、意見を言えない人、思っても言えない人、何も考えてない人がいた。いろいろな人がいたので、真ん中に模造紙を置いて、いろいろ書いてみた。すると、どんな人も模造紙に書き込みを始めたので、空中戦でみんながいろいろ言うだけでなく、そこにいる人たちが全員参加、発言できるようなものがあればいい。</p>
学校	<p>タブレットを使用したり、ホワイトボードを活用したりしている。</p>
委員	<p>グループ学習は3～4人。どうして3～4人がいいかというと、対角線</p>

	<p>上に視線が交わる。「まなぼーど」は話し合いながら書くというのがポイント。数学は奇跡の15分間が生まれたら最高。何かというと15分間手が止まらない。分数のたし算をどうするの？なんで？と言われたら説明しないとイケない。すると図を書いたり、絵をかいたりして説明する。聞き書きというもの。それは言葉を育てることにもつながる。板書をするのは話し言葉が消えるから。話すことと書くことを連結することが大切。タブレットを使うことはいい。ホワイトボードを使うことがなくなっただけ。必要なら復活させたらいい。</p>
<p>委員</p>	<p>大きな紙は子どもたちがワクワクする。模造紙を進める理由は、みんなに見せられる。日本人は紙の文化で育ってきているので、タブレットもいいけど、字を書く、手を使う経験がもっとあればいい。タブレットを否定しているわけではなく、気分が変わって活発に意見を出せる人もいるのかなと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>資料にもあったサポーター募集のチラシについて、何か動きがあれば教えてほしい。</p>
<p>学校</p>	<p>3名登録があった。1名は3校ともお手伝いを希望されている。仕事内容としてはクラブ活動のお手伝いや家庭科のお手伝いなどを希望されている。お礼も兼ねてお電話したが、何でも手伝うと言ってもらっている。</p>
<p>6. 議題5</p>	<p>今後の予定 学校より説明 次回の学校運営協議会 10月か11月の予定</p>
<p>7. 閉会</p>	